

令和6年度 第4回県立スポーツ施設のあり方検討会 議事要旨

日時：令和6年12月20日（金）13:00～15:00

場所：高知県立高知城歴史博物館 1Fホール

出席：委員8名中7名が出席

出席委員：坂本委員、中城委員、前田委員、町田委員、丸委員、森戸委員、山崎委員

次第：①報告事項

②議 事：県民体育館の再整備等における考え方の方向性について

1 開会

部長挨拶

今年3つの大きな出来事があった。①オリンピック・パラリンピック共に本県出身の選手が活躍を見せ、メダリストも誕生した。②国民スポーツ大会にて本県の順位が昨年度から大きく上昇。③高知ユナイテッドSCがJリーグ入りを決めた。今回の第4回目の検討会が最後でとりまとめに移らせていただくが活発な討論をお願いします。

2 報告事項

報告事項について、資料を使用して事務局が説明。

●森戸委員

アンケートについて、複数回答なので円グラフより棒グラフの方が適切。

○事務局

修正する。

3 議 事

議事について、資料を使用して事務局が説明。

【原田アドバイザー】

- ・スポーツ×エンタメ、スポーツ×防災が実現すれば興味深い施設になる
- ・ユニバーサルデザインは重要な要素なのでしっかりと検討を
- ・憩いの広場は活用の幅が広く、是非あった方がよい
- ・より利用者が利用しやすい視点から、物品の搬入で主催者の運営負担が少ない施設
- ・収納スペースを多く確保することは重要
- ・収益を考慮すると観客席のシートのランクに差をつけることも必要
- ・運営方式としては、地方で受けられるなり手があるかどうかを慎重に（PFI）

- ・多目的な利用の面では沖縄アリーナが最適

【高知県議会から】

- ・最低でも 5000 人規模の席が必要ではないか
- ・駐車場は必要であるが、施設として必要な規模を検討して欲しい
- ・南中高跡地を活用してはどうかという意見があった。

●森戸委員

資料 1 の憩いのスペースは行列とか待ち時間を潰すスペースとして有効。コンサートでは開館前からグッズ販売等で混雑する。

子ども向けのイベントの場合は車で来るため駐車場はすぐに満車になる。駐車場にあまり注力しないというのは同意だが、周辺施設との連携は重要。

憩いのスペースは施設に柔軟性を出させるため、フレキシブルな使い方が望ましい。

○事務局

憩いのスペースは様々な用途を想定した検討を今後進めていく。

●町田委員

コミュニティーづくりなど、ソフト面のコンテンツも並行して進めて欲しい。アリーナができたときにどんな使い方をするかを議論していくイメージ。計画の存在を知ってもらい考えてもらうといいものができると思う。

○事務局

今後取り組んでいく。

●丸委員

原点に立ち返り、第 1 回でお伝えした優先順位と「誰のための施設か」を考えたときに、第 3 期高知県スポーツ推進計画をみるとスポーツに参加するから始まっている。ということは、日常的な「するスポーツ」を重視する必要があるのではと思う。こういった中長期的な計画と連携させておかないと基本計画の中でもぶれてしまう。事務局のイメージはどうか。

○事務局

優先順位を考えたときに、現状に対応できていない部分に着目して計画を立てないといけないと考えている。

第 3 期高知県スポーツ推進計画のことをいうと、スポーツに参加するから始まってはいるが柱の一つであり、ほかの柱においても同等の扱い。特に力を入れたいと思っていることは、

子どもや若者、障害者等のスポーツ環境の改善または機会を増やすこと。こういったキーワードとリンクさせた整備を目指す。

●丸委員

中体連・高体連のイベント大きな大会が滞りなく開催できるような機能が整えば、プロチームの興行もクリアできる方向に向かう。アーティストによるコンサートはハードルがさらに上がるので、どの基準を満たすかのバランスが重要になってくる。

●中城委員

施設の役割分担という点においては、高知市と県で進めていきたいと思う。高知市としては生涯スポーツの推進、市民の健康づくりを重視した取組を進めているので、施設の日常使いにおいては、県と連携しながら高知市でも受け入れをしていきたい。プールについての今後の方針はあるか。

○事務局

プールについては今後高知市とも協議をしていき、別のタイミングで整理をしていく。まずはアリーナについて検討をしていく。

●坂本委員

(提案1) 防災の観点から、施設の機能が新しく変化するので、他の計画の位置づけが変わってくる可能性がある。位置づけの変更関係の検討も必要。

(提案2) ユニバーサルデザインにおいて利用当事者に意見を聞くことが重要。どういう風に議論に入ってもらうかが大事だと思う。

また、基礎調査が終了した後、契約になると思うがプロポーザル（企画提案型）で複数から選ぶのか。

○事務局

(提案1) スポーツの計画はもちろんであるが、ほかの計画との関連についても対応していく。

(提案2) 利用当事者については、今年度中に可能な限り聞き取りを行う予定。基本計画を策定していく中でどのタイミングで関係者に聞き取りを行うかは進めながら見極める。

また、来年度からの調査においては、県でできることと委託しないとできないことがある。委託においてはプロポーザルも検討する。

●坂本委員

基礎調査をもとに、業者が手を上げると思うが、プロセスはどうなるのか。

○事務局

基礎調査をもとにというよりは、基礎調査を含めた委託になる。県でできることとできないことに分かれ、県でできない業務を委託する。

●坂本委員

自身の経験として、委託業務の選定委員をしたときに提案内容について知識がなく選定に困ったことがあった。選定基準を決めたうえで審査に入るべき。

●山崎委員

高体連は競技種目が29種目あり県民体育館は大会で屋内スポーツを中心に利用している。原田アドバイザーの助言の中に、準備・撤去がしやすい、収納スペースの重要性の指摘があった。

青少年センター体育館では、器具庫の扉は横にスライドする方式であるが、予算の関係で扉が小さくなり、生徒が準備・片づけ等で利用した際にぶつけることが多い。新たな施設では利用しやすさに配慮して欲しい。

また、新施設ではこれまで県民体育館を利用していなかった種目の使用希望が出る可能性がある。その際には、用具の保管場所も必要になるので、そうした点を基本計画でも検討して欲しい。

○事務局

様々な利用を想定して検討を進めたい。スペースの関係で機能の選択に悩むと思うが利用者の視点で、具体的に計画を決めていく。

●前田委員

敷地内に商業地域と住居地域があるが、高さ制限や物品販売等の機能の配置についての整理の進捗はどうか。基本計画時にはどこまで整理できていないといけないのか。

○事務局

現状では今以上に進展はしていない。基本計画の早い段階で明確にしていく。

●前田委員

運営の手法等は収益化につながってくる。商工会や経済同友会、民間企業にもヒアリングをした方がよい。ネーミングライツや各種広告協賛の可能性を検討しておくことも重要であるし、今後の50年を見据えると5～10年後にトップスポーツのホームチームが

できているかもしれない。民間企業にビジネスチャンスと見えるような資料づくりが必要だと思う。

○事務局

幅広い関係者へのヒアリング、ステークホルダーの整理を進めていく。

●坂本委員

整備による経済的・社会的効果では新しい施設は未知数だと思うので、数字遊びになりがちだと感じる。

また、維持管理関連で物価高騰、人材不足ということもBbyCを検討するうえでは必要なので、計画の中で検討すべき。

○事務局

様々な効果を検討するうえで数字は現実性を持たせたいと考えている。費用対効果も同様で、物価等の考慮は悩ましい要素。建設コストも4～5年前に比べてかなり高騰している。社会情勢を見ながら検討したい。

●町田委員

部活動の地域連携で、講師の方と連携にはまだまだ時間がかかる。5年後だと指導者不足・確保が深刻になっていることも考えられる。部活動・イベント開催等、子どもたちの活動の場として長期的に考え新施設と学校との連携も検討して欲しい。

○事務局

部活動の関係は施設の優先順位とも関連するが、高知市とも役割分担しながら検討したい。新施設ではトップチームとの交流も増えると思うので、学校や教育団体とも連携していく。

●丸委員

市と県の役割分担が円滑に進みそうな印象を受けており、県がエンタメに振り切れるかもしれないと感じている。施設が完成すればプロチーム・指導者に加えて、スポーツビジネス関係者や研究者など様々な人材が高知県に入ってくる。部活動はもちろんスポーツを通じた教育を見越して事前に関係性を作っておくことがスタートダッシュに繋がる。親の目線から言うとスポーツを通じた教育が豊かなまちというのは魅力的である。

●中城委員

潮江地域は津波浸水区域で、津波避難ビルが少ない。近隣住民の理解を得るためには、

防災の機能・規模についてPRをした方がよい。第一種住居地域も含んでいるので、そうした点も丁寧に説明しながら進めて欲しい。

○事務局

防災機能については今後も専門家や地域の方と相談しながら進めていく。器具庫や各諸室についても有事の際には個室として利用しやすいように検討しなければならない。

●森戸委員

施設の社会的効果は住民への情報開示が大事だと思う。体育館ではイベントが今日何をしているのか知らないことが多いため、今日はこんなイベントをしています。ということが近隣の方にも分かるようにしたほうがよい。施設の前を通りがかった時に分かるようにすると、人が集まり始め、にぎわいに繋がると思う。

○事務局

基本計画を策定する前段の調査では、本日各委員からいただいた具体的なポイントを意識しながら臨みたい。

●丸委員

施設の目の前を走る路面電車との連携は非常に重要。駐車場問題にも繋がるし、プロが来たときには電車がラッピングされ盛り上がりにも繋がるだろう。このツールを最大限に生かしたい。

○事務局

多目的な利用を目指していく中で、様々な関係者との協議・連携が必要だと再認識した。幅広い視点を持って準備を進めていきたい。

●前田委員

県民体育館が老朽化を契機とした建替の話になりがちだが、この検討会は多様なジャンルの委員が集まり意見を出し合うことで、アリーナを起点としたまちづくり（スポーツ健康まちづくり）に繋がると思う。これから基本計画に移行するが、まちが今後どうなっていくか等、中長期的な目線での視点が重要になる。

4 閉会